

三重県さくらねこTNRプロジェクト 実施報告書



主 催 : 公益財団法人どうぶつ基金、三重県
申請者 : 三重県動物愛護推進センター あすまいる
会 場 : 三重県動物愛護推進センター あすまいる
期 間 : 平成29年6月15～16日（手術日）

三重県の現状（報告書より）

伊賀地区の動物愛護ボランティア団体から、伊賀市内に飼い主のいない猫20匹が定着しており、そのうち12匹について不妊・去勢手術等の支援の要請があった。

また、上記対象以外に本年4月に県内各保健所へ、飼い主のいない猫の定着状況調査とTNR活動等の支援対象の可否について調査を行った結果、本年4月末時点で、TNR活動等の支援が可能な地区は65地区で、不妊・去勢手術等を行っていない飼い主のいない猫は推定358匹といった結果になった。

三重県の猫の殺処分数

猫										
三 重 県	引取数				処分数					
	飼い主から 成熟 固体	飼い主から 幼齢 固体	所有者不明		返還数	返還数の うち幼齢 固体	譲渡数の うち幼齢 固体	譲渡数	譲渡数の うち幼齢 固体	殺処分数 のうち幼 齢固体
	成熟固体	幼齢固体	成熟固体	幼齢固体						
	77	95	45	1062	8	5	3	252	0	1022

三重県では平成27年度1年間で1022匹の猫の殺処分を行っている。殺処分のうち、8.5割～9割は離乳前の幼齢個体である。不妊手術によってこれだけの殺処分を予防することができる地域である。

対象場所の状況（報告書より）

本年5月28日に、三重県の動物愛護管理推進事業の拠点となる三重県動物愛護推進センター「あすまいる」が開所したが、「あすまいる」の取組のひとつとして、飼い主のいない猫の減少に向けた取組を行う予定である。

これまで三重県では、どうぶつ基金の支援を受けながら、伊賀地区を中心に関係団体等と飼い主のいない猫の不妊・去勢手術等の支援を実施してきたが「あすまいる」開所後は、「あすまいる」を拠点施設として、この取組を県内全域に広げていく必要がある。

目的

- (1) 保健所への引取り、殺処分の回避
 - (2) 猫の糞尿等による生活環境が損なわれる事態の回避
 - (3) 「地域猫活動」又は「TNR活動」の周知と理解
- (申請書より)



会場： 三重県動物愛護推進センター あすまいる

各地区の手術頭数内訳（報告書より）

事業を実施するにあたり、県内の各保健所に対して飼い主のいない猫の定着状況の調査を行い、各保健所の手術数を決定したが、指定の期日内に飼い主のいない猫を捕獲できなかった、手術前に死亡した等の理由により変更が生じた。（下表のとおり）

手術日	保健所名	オス	メス	実施数	手術前死亡	手術予定数
6月15日	熊野	16	14	30	0	30
	四日市市	9	11	20	0	20
	伊勢	5	13	18	1	20
	松阪	13	10	23	0	20
	伊賀	3	13	16	0	20
小計		46	61	107	1	110
6月16日	尾鷲	16	9	25	0	25
	桑名	4	7	11	0	10
	鈴鹿	16	9	25	0	25
	津	14	11	25	0	25
小計		50	36	86	0	85
合計		96	97	193	1	195

スケジュール

2017/6/15（木）		2017/6/16（金）	
8:30	会場到着・設営	8:50	朝礼
9:00	朝礼	9:00	手術開始
9:10	手術開始	12:00	昼休憩
12:00	昼休憩	13:00	手術再開
13:00	手術再開	17:20	手術終了
17:30	手術終了・終礼	18:00	撤収完了・終礼

手術数

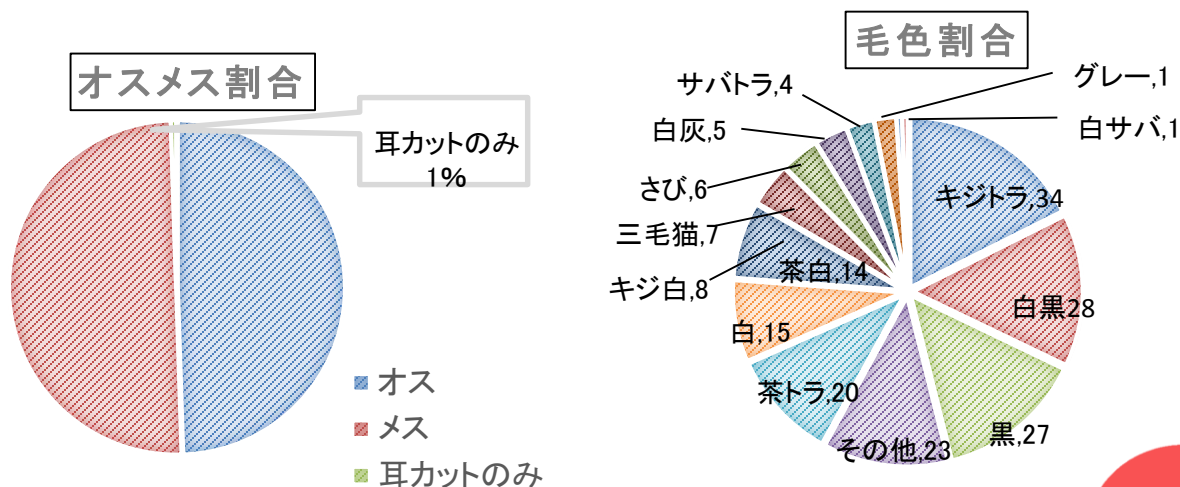
	オス	メス	耳カットのみ	計
6月15日	46	61	1	108
6月16日	50	36	0	86
計	96	97	1	193

処置内容

不妊去勢手術、耳先のV字カット（さくら耳）、3種混合ワクチン
ノミ・ダニ・回虫の駆除薬（レボリューション）、目薬、補液等

捕獲器・ケージ使用台数

所持者	(公益)事務所	あすまいる	保健所	市町	ボランティア等
捕獲器	26	70	11	6	28
收容コンテナ	28	0	25	0	10



どうぶつ基金：山口・足立

あすまいる：久米（所長）、千田、岩城 他行政獣医師

ボランティア参加：辻（三重県伊賀獣医師会支部長）、
坂本（静岡県）

D.P.C.（ダイゴペットクリニック）：青島、青山、倉地



日付	県職員	市町職員	(公財) 三重 県動物管理事 務所職員	動物愛護 ボランティア	総数
6/15	健康福祉部、 動物愛護推進 センター、桑名 保健所、鈴鹿 保健所、津保 健所、伊賀保 健所、尾鷲保 健所	四日市市、津 市、大紀町、 紀宝町			
人数	12	6	5	2	24
6/16	健康福祉部、 動物愛護推進 センター、津保 健所、松阪保 健所、伊勢保 健所、 伊賀保健所、 熊野保健所	津市 尾鷲市紀北 町			
人数	11	6	5	2	23



久米所長様（獣医師）





● 山口獣医師からのご挨拶
(左から足立獣医師、山口獣医師、佐上理事長)



● 手術前のミーティング風景



● 手術待ちの猫たち



● 手術する前に、耳先カット（さくら耳）、毛刈りを行う



● NHK津放送局による取材

伊勢新聞（6月16日）



朝日新聞（6月16日）



伊賀タウン情報「You」（6月24日）



三重テレビ放送（6月15日）

三重県NHKニュース・WEBニュース（6月16日）

NHK NEWS WEB

2017年（甲）

三重 NEWS WEB

殺処分ゼロへ 野良猫の不妊手術

06月16日 19時36分



殺処分数される猫を減らそうと、県が飼い主のいない猫に不妊手術などを施す取り組みが津市で行われました。

県内では昨年度、663匹の猫が殺処分されていて、県では平成35年度までに犬や猫の殺処分をゼロにする目標を掲げて取り組みを進めています。

16日は飼い主のいない、いわゆる、野良猫がこれ以上繁殖しないよう、県内9つの保健所から約200匹の猫が集められ、津市の県動物愛護推進センターで、不妊手術や去勢手術が行われました。

猫は初めに感染症を防ぐためのワクチンの接種を受けたあと、1匹ずつ手術台に乗せられ、3人の獣医師が慎重に不妊手術や去勢手術を行っていました。

手術を受けた猫は経過を観察し、体調が回復した後、元の地域に戻されるということです。

活動に協力した「どうぶつ基金」の佐上邦久理事長は「手術した猫は子どもを産むこともなく、さかり声なども軽減するので、地域の人にあたたかく見守って欲しい」と話していました。

伊勢新聞WEBニュース（6月16日）

2017年6月16日（木）

伊勢新聞

社会 経済 生活 地域 人間 文化 環境 体育 芸能 芸能 芸能

伊勢新聞・社会・野良猫195匹に不妊手術 どうぶつ基金が「あすまいる」で

野良猫195匹に不妊手術 どうぶつ基金が「あすまいる」で

© 2017-06-16 伊勢新聞



【猫の不妊手術を受ける野良猫。どうぶつ基金が「あすまいる」で】

殺処分ゼロを目指す伊勢新聞社「どうぶつ基金」（公益財団法人）が、愛知・岐阜・三重の3県にまたがる、愛知動物愛護推進センター「あすまいる」で、飼い主のいない猫の不妊手術や去勢手術を実施した。愛知・岐阜・三重の3県の野良猫195匹が対象で、手術は16日に行われた。

どうぶつ基金は、寄付金を主に活動資金として不妊手術や去勢手術を実施している。5月までに愛知で約1万2000匹、岐阜で約1000匹、三重で約1000匹の猫が手術を受けた。伊勢新聞社の協力もあって、手術は16日に行われた。

手術は、愛知動物愛護推進センターのワクチン接種室で、ノミやダニの駆除、猫の健康チェックなどを行った。手術を受けた猫は、手術後、元の地域に戻される。手術は16日に行われた。

愛知動物愛護推進センターは「愛知・岐阜・三重の3県にまたがる、愛知動物愛護推進センター「あすまいる」で、飼い主のいない猫の不妊手術や去勢手術を実施した。愛知・岐阜・三重の3県の野良猫195匹が対象で、手術は16日に行われた。」と発表した。

愛知動物愛護推進センターは、5月までに愛知で約1万2000匹、岐阜で約1000匹、三重で約1000匹の猫が手術を受けた。伊勢新聞社の協力もあって、手術は16日に行われた。

愛知動物愛護推進センターは「愛知・岐阜・三重の3県にまたがる、愛知動物愛護推進センター「あすまいる」で、飼い主のいない猫の不妊手術や去勢手術を実施した。愛知・岐阜・三重の3県の野良猫195匹が対象で、手術は16日に行われた。」と発表した。

Sakura Neko
TNR

10

三重県においては、どうぶつ基金による出張手術の支援を2回行ったが、出張手術までに至る企画・準備・関係者との調整を三重動物愛護推進センターが、現地での捕獲や術後の放猫（リターン）を各保健所の担当者や地元住民等は行うといった役割分担をした結果、過去2回実施した時よりも大きな負担がなく、円滑に事業を行うことができた。今回の事業の対象となった地区については、主に保健所に苦情が寄せられている地区、過去に猫の持ち込みが保健所にあった又は相談があった地区、動物愛護ボランティアの活動地区に分類できるが、動物愛護ボランティアの活動地区に定着する飼い主のいない猫の手術を希望どおり実施することができなかった。

三重県においては、将来的に犬・猫の殺処分数がゼロになることを目指しているが、そのためには大半を占める自活のできない幼齢子猫の引取数を減少させる必要がある。保健所が収容した猫については、譲渡事業を行い生存の機会を設けているが、そもそも保健所へ持ち込まれる猫の数を減少させる取り組みを実施していく事が喫緊の課題であると据えている。これまで、どうぶつ基金の支援を受けながら飼い主のいない猫の不妊・去勢手術等実施してきたが、未だ手術等未実施の飼い主のいない猫の定着が多数確認されている。猫の高い繁殖力を考慮すれば、この取組を継続していくとともに、「TNR活動」又は「地域猫活動」について理解を深める取組も実践していくことが重要であると考えている。（報告書より抜粋）

今回は三重県が運営するどうぶつ愛護センター(あすまいる)において手術が行われました。

このような形で行政が運営するセンターで連携し協働するのは、全国初の取り組みです。現場では行政の皆様の「殺処分ゼロ」への想いが感じられるとても熱気に満ちた雰囲気、皆様のお力添えがなければ、本事業を成し得なかったと思います。今後も継続し実施する事で、三重県における猫の殺処分課題を解決するための非常に有効な選択肢の一つだと考えています。

どうぶつ基金事務局長 児玉明文



公益財団法人どうぶつ基金

三重県